



2025年12月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年 2 月 13 日

上場会社名 株式会社enish 上場取引所 東
コード番号 3667 U R L <https://www.enish.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安徳 孝平
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 高木 和成 T E L 03(6447)4020
定時株主総会開催予定日 2026年 3 月 24 日 配当支払開始予定日 -
有価証券報告書提出予定日 2026年 3 月 25 日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期の業績 (2025年 1 月 1 日～2025年12月31日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期	2,170	△34.5	△856	—	△832	—	△1,151	—
2024年12月期	3,317	△5.4	△815	—	△862	—	△882	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年12月期	△44.19	—	△139.8	△49.6	△39.5
2024年12月期	△36.09	—	△126.9	△47.2	△24.6

(参考) 持分法投資損益 2025年12月期 -百万円 2024年12月期 -百万円

(注) 2024年12月期及び2025年12月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失金額であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期	1,593	766	47.8	19.99
2024年12月期	1,760	889	50.3	32.99

(参考) 自己資本 2025年12月期 762百万円 2024年12月期 885百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年12月期	△873	△108	1,019	800
2024年12月期	△966	△124	1,146	762

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2026年12月期 (予想)	—	—	—	—	—		—	

(注) 2026年12月期の配当予想につきましては、現在未定であります。

3. 2026年12月期の業績予想 (2026年 1 月 1 日～2026年12月31日)

2026年12月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載しておりません。
なお、当該理由等につきましては、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(2) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2025年12月期	38,137,560株	2024年12月期	26,843,560株
2025年12月期	684株	2024年12月期	674株
2025年12月期	26,057,089株	2024年12月期	24,439,490株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	3
3. 財務諸表及び主な注記	4
(1) 貸借対照表	4
(2) 損益計算書	5
(3) 株主資本等変動計算書	6
(4) キャッシュ・フロー計算書	8
(5) 財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(持分法損益等)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(1株当たり情報)	11
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度における我が国経済は、雇用や所得環境の改善により緩やかな回復傾向にある一方で、為替相場の変動や原材料価格の高止まり、物価上昇などの影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当社は「Link with Fun」というスローガンのもと、「世界中にenishファンを作り出す」というミッションを掲げ、より多くのお客様に楽しんでいただける、魅力的なサービスの提供に取り組んでおります。

2024年度の国内ゲームコンテンツ市場は、前年比3.4%増の約2.4兆円と堅調な規模を維持しました。その中で、当社の事業領域であるモバイルゲーム市場は、引き続き市場全体に占める比重が高く、約1.7兆円と継続して安定した規模を維持しております。（出典：株式会社角川アスキー総合研究所「ファミ通ゲーム白書2025」）

このような事業環境の中、既存タイトルについては、運営施策を工夫することで売上の通減を最小限に抑えるとともに、時差が少なく通信環境も良好なベトナムの子会社を活用し、チャットやオンライン会議等を通じて密なコミュニケーションを図り、コスト削減と円滑な運営体制の両立に努めております。新規タイトルに関しては、知名度の高い社外IPの活用や、当社がこれまでに培ってきたノウハウ・知見を基盤に、開発の遅延防止、プロモーション投資による集客強化、さらにはグローバル展開も視野に入れた魅力的なゲーム及び関連事業の展開を推進しております。こうした既存タイトルの効果的な運営と新規開発の両輪により、売上高の維持・拡大を図っております。

「ぼくのレストラン2」や「ガルショ☆」は、リリースから15年を迎える現在も、コラボレーション施策が好調に推移しており、安定した収益を確保しております。今後も、運営施策の工夫により売上の減少を抑制し、よりきめ細かな対応を通じてユーザー満足度の向上に努めてまいります。また、リリース3周年を迎えた「進撃の巨人 Brave Order」では、新規ユーザー獲得、既存ユーザーの呼び戻し、機能改善等に取り組み、タイトルの活性化を図るとともに、魅力的なイベント施策の展開により、収益への寄与を図っております。さらに、リリース1周年を迎えた「De:Lithe～忘却の真王と盟約の天使～」をベースとするブロックチェーンゲーム「De:Lithe Last Memories」は、ログライクRPGとして開発されましたが、暗号資産GEEKが取引所においてデリスト（取引停止）となったことを受け、現在はモバイルゲームとして再構築のうえ、再始動しております。

足元の新作としては、オンライン麻雀ゲーム「雀エボライブ」を2025年9月17日にリリースいたしました。本作は初心者から上級者まで楽しめる多彩なプレイモードを備え、個性豊かなキャラクター（雀士）が登場します。豪華声優陣によるボイスや衣装の着せ替え要素も取り入れ、麻雀対局だけでなくキャラクター収集の楽しみも提供するタイトルとなっております。リリース初期の売上は当初の想定を下回ったものの、継続的な機能改善やイベント施策により、今後の収益寄与につなげてまいります。また、パズルゲーム「声優どうぶつ園 ボイスフル」は、中国版TikTokである抖音（ドウイン）にて、2026年春リリースに向け、開発を進めております。さらに、「ゆるキャン△ みんなでワチャワチャ！キャンピングクック！」を今冬リリースに向け、開発を進めております。本作は人気TVアニメ『ゆるキャン△』を原作としたNintendo Switch及びSteam向けゲームであり、登場キャラクターたちと協力しながらキャンプの段取りを楽しむキャンピングアクションゲームです。ソロプレイとマルチプレイ双方の体験価値を提供します。Steamストアページ及び公式サイトへの公開に加え、『ゆるキャン△』10周年記念展での試遊出展を通じて、発売を楽しみに待っているファンを中心に、リリースへの期待を高めるとともに、より多くの方知ってもらえるよう準備を進めております。さらに、新たなタイトルとして、大人気TVアニメ『弱虫ペダル』シリーズの新作アプリ「弱虫ペダル レゾナンス・ペダイズム」の制作を決定いたしました。本作は、主人公・小野田坂道をはじめとする個性豊かなキャラクターたちが織りなす、青春ストーリーを背景とした育成シミュレーションゲームです。制作発表直後より大きな反響を得ており、今後の開発進捗に応じた情報公開を通じて、さらなる認知度向上と安定したリリース体制の構築を目指してまいります。

また、2025年11月11日付「訴訟の和解に関するお知らせ」で開示したとおり、当社に対して提起されていた株式会社HashPaletteからの不当利得返還請求訴訟につきましては、和解が成立いたしました。本件に関連して発生した和解金等につきましては、契約関係に基づく会計処理を行った結果、当事業年度において特別損失として計上しております。今後は、法令遵守及び取引関係の適正化に一層努めてまいります。

このように、当事業年度においては、既存タイトルの安定運営に加え、新規タイトルの投入に向けた企画・開発部門への人材投入のほか、中期的観点から企業価値及び株主価値の向上に向けた施策や、将来のリスク解消を積極的に進めております。また、業務全体としては、不採算タイトルの事業譲渡や配信終了も視野に入れつつ、AI技術を活用した業務プロセスの効率化を推進しており、外注加工費や広告宣伝費の削減をはじめ、売上原価及び販売費・一般管理費の低減に向けた取り組みが着実に成果を上げつつあります。

以上の結果、当事業年度の業績は、売上高は2,170百万円（前事業年度比34.5%の減少）、営業損失は856百万円（前事業年度は815百万円の営業損失）、経常損失は832百万円（前事業年度は862百万円の経常損失）、当期純損失は1,151百万円（前事業年度は882百万円の当期純損失）となっております。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当事業年度末の資産につきましては、前事業年度末に比べて167百万円減少し、1,593百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加（前事業年度末比73百万円の増加）、暗号資産の増加（前事業年度末比111百万円の増加）があった一方で、売掛金の減少（前事業年度末比223百万円の減少）、その他流動資産の減少（前事業年度末比124百万円の減少）によるものであります。

(負債)

当事業年度末の負債につきましては、前事業年度末に比べて44百万円減少し、827百万円となりました。これは主に、未払金の増加（前事業年度末比64百万円の増加）、1年内償還予定の社債の増加（前事業年度末比30百万円の増加）があった一方で、契約負債の減少（前事業年度末比67百万円の減少）、買掛金の減少（前事業年度末比66百万円の減少）によるものであります。

(純資産)

当事業年度末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて122百万円減少し、766百万円となりました。これは主に、第三者割当による行使価額修正条項付第19回及び20回新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ514百万円増加した一方で、当期純損失を1,151百万円計上したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前事業年度末と比べ37百万円増加し、800百万円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動により使用した資金は、873百万円となりました。これは主に、税引前当期純損失1,147百万円の計上、貸倒損失244百万円の計上があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動により使用した資金は、108百万円となりました。これは主に、暗号資産の取得による支出104百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動により獲得した資金は、1,019百万円となりました。これは主に、新株予約権の行使による株式の発行による収入1,023百万円があったことによるものであります。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、既存タイトルの売上高の維持と効率的な運営体制の見直しを行い収益力の強化を図ってまいります。また、売上収益の拡大を目的に、新規で年間1～2タイトルをリリースしていく方針です。

今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、開発の長期化や開発費の高騰など各種リスクの低減を図りながら、高品質なタイトルの開発を行ってまいります。

業績予想につきましては、モバイルゲーム事業を取り巻く環境の変化が激しく、当社の業績も短期的に大きく変動する可能性があること等から、信頼性の高い業績予想数値を算出することが困難となっているため、決算業績及び事業の概況の速やかな開示に努め、業績予想について開示は見合わせております。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度まで10期連続となる営業損失及び11期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、当事業年度においても、営業損失856百万円、マイナスの営業キャッシュ・フロー873百万円となりました。これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

なお、詳細につきましては、「3. 財務諸表及び主な注記（5）財務諸表に関する注記事項（継続企業の前提に関する注記）」に記載しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、現在日本基準を適用しており、国際会計基準の将来における適用については、現時点では未定です。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当事業年度 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	809,755	882,813
売掛金	434,635	211,305
前渡金	11,000	20,350
前払費用	53,411	41,607
暗号資産	—	111,562
その他	179,674	55,050
流動資産合計	1,488,477	1,322,688
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	40,659	40,659
関係会社株式	133,580	133,580
長期前払費用	3,915	1,646
敷金及び保証金	94,160	95,010
投資その他の資産合計	272,316	270,897
固定資産合計	272,316	270,897
資産合計	1,760,793	1,593,585
負債の部		
流動負債		
買掛金	108,789	41,930
短期借入金	300,000	300,000
1年内償還予定の社債	—	30,000
リース債務	654	654
未払金	120,803	185,435
未払費用	16,534	11,697
未払法人税等	28,280	32,240
契約負債	276,589	209,355
預り金	12,557	7,945
その他	3,490	4,857
流動負債合計	867,701	824,116
固定負債		
リース債務	1,691	1,037
資産除去債務	1,940	1,940
固定負債合計	3,631	2,977
負債合計	871,333	827,093
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,389,188	4,903,422
資本剰余金		
資本準備金	4,388,187	4,902,422
資本剰余金合計	4,388,187	4,902,422
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△7,891,488	△9,043,210
利益剰余金合計	△7,891,488	△9,043,210
自己株式	△191	△192
株主資本合計	885,695	762,442
新株予約権	3,765	4,050
純資産合計	889,460	766,492
負債純資産合計	1,760,793	1,593,585

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
売上高	3,317,109	2,170,101
売上原価	3,287,583	2,493,708
売上総利益又は売上総損失(△)	29,525	△323,606
販売費及び一般管理費	845,215	533,046
営業損失(△)	△815,689	△856,653
営業外収益		
受取利息	3,367	5,294
過年度消費税等	6,000	—
暗号資産評価益	—	7,448
債務免除益	—	53,393
その他	185	146
営業外収益合計	9,553	66,283
営業外費用		
支払利息	41,544	35,044
為替差損	7,028	1,815
株式交付費	5,310	4,112
その他	2,316	1,099
営業外費用合計	56,200	42,072
経常損失(△)	△862,336	△832,442
特別損失		
減損損失	13,409	3,155
貸倒損失	—	244,075
特別退職金	2,657	15,535
和解金	—	52,500
特別損失合計	16,067	315,266
税引前当期純損失(△)	△878,403	△1,147,709
法人税、住民税及び事業税	3,813	4,012
法人税等合計	3,813	4,012
当期純損失(△)	△882,217	△1,151,722

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	3,757,545	3,756,545	3,756,545	△7,009,271	△7,009,271
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）	631,642	631,642	631,642		
自己株式の取得					
当期純損失（△）				△882,217	△882,217
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	631,642	631,642	631,642	△882,217	△882,217
当期末残高	4,389,188	4,388,187	4,388,187	△7,891,488	△7,891,488

(単位：千円)

	株主資本		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	△40	504,779	3,765	508,544
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）		1,263,285		1,263,285
自己株式の取得	△151	△151		△151
当期純損失（△）		△882,217		△882,217
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			—	—
当期変動額合計	△151	380,916	—	380,916
当期末残高	△191	885,695	3,765	889,460

当事業年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	4,389,188	4,388,187	4,388,187	△7,891,488	△7,891,488
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）	514,234	514,234	514,234		
自己株式の取得					
当期純損失（△）				△1,151,722	△1,151,722
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	514,234	514,234	514,234	△1,151,722	△1,151,722
当期末残高	4,903,422	4,902,422	4,902,422	△9,043,210	△9,043,210

（単位：千円）

	株主資本		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	△191	885,695	3,765	889,460
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）		1,028,469		1,028,469
自己株式の取得	△0	△0		△0
当期純損失（△）		△1,151,722		△1,151,722
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			285	285
当期変動額合計	△0	△123,253	285	△122,967
当期末残高	△192	762,442	4,050	766,492

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失 (△)	△878,403	△1,147,709
減価償却費	4,808	—
減損損失	13,409	3,155
貸倒損失	—	244,075
株式交付費	5,310	4,112
受取利息及び受取配当金	△3,367	△5,294
支払利息	41,544	35,044
為替差損益 (△は益)	△765	△1,578
暗号資産評価損益 (△は益)	—	△7,448
売上債権の増減額 (△は増加)	△63,301	63,079
仕入債務の増減額 (△は減少)	△20,982	△66,859
未払金の増減額 (△は減少)	5,565	64,632
契約負債の増減額 (△は減少)	△47,282	△67,234
未払又は未収消費税等の増減額	29,059	21,428
その他の資産の増減額 (△は増加)	△41,186	23,386
その他の負債の増減額 (△は減少)	7,460	△3,600
小計	△948,130	△840,808
利息及び配当金の受取額	86	1,389
利息の支払額	△15,044	△30,044
法人税等の支払額	△3,813	△3,999
営業活動によるキャッシュ・フロー	△966,899	△873,463
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,566	△3,155
敷金及び保証金の差入による支出	△9,000	△850
貸付けによる支出	△80,000	—
関係会社貸付けによる支出	△34,188	—
暗号資産の取得による支出	—	△104,114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△124,754	△108,120
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	300,000	300,000
短期借入金の返済による支出	△750,000	△300,000
社債の発行による収入	—	300,000
社債の償還による支出	—	△270,000
新株予約権の発行による収入	1,915	1,294
新株予約権の行使による株式の発行による収入	1,256,059	1,023,348
自己株式の取得による支出	△151	△0
自己信託に供した預金の増減額	338,925	△35,509
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,146,748	1,019,132
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	55,094	37,548
現金及び現金同等物の期首残高	707,713	762,807
現金及び現金同等物の期末残高	762,807	800,355

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社は、前事業年度まで10期連続となる営業損失及び11期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、当事業年度においても、営業損失856,653千円、マイナスの営業キャッシュ・フロー873,463千円となりました。これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社は、当該事象又は状況を解消し事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するために、以下の対応策を講じております。

①事業基盤の安定化

徹底的なコスト削減や、事業の選択と集中により、事業基盤の安定化を図ってまいります。具体的には、既存タイトルについては、各タイトルの収益状況に応じた人員配置を行うなど運営体制の見直しを継続的に行うことによりコスト削減を図るほか、その中においても収益が見込めない既存タイトルについては、それらの事業譲渡・配信終了も視野に対応する方針であります。また、他社IPタイトルとのコラボレーションを実施するなど、他社IPの協力を得ることによりユーザーのログイン回数や滞在時間の増加を図り、売上収益の拡大を進めてまいります。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、高品質なタイトルの開発を推進いたします。人員体制及び協力企業の制力作・技術力を踏まえ、過去事例を参考に慎重に工数を見積もることで、開発スケジュールの遅延等による開発費の増加が生じないように努めてまいります。また、IPの価値と経済条件を踏まえ収益性が高く見込まれるタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することにより、当社の収益改善を図ってまいります。

②財務基盤の安定化

財務面につきましては、財務基盤の安定化のため、複数社の取引金融機関や協業先と良好な関係性を築いており、引き続き協力を頂くための協議を進めております。なお、2025年1月10日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権が2025年5月29日までにすべて行使された結果、727,315千円の資金調達をしております。また、2025年10月14日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第20回新株予約権が2025年12月31日までに45,940個行使された結果、300,146千円の資金調達をしており、財務基盤の安定化が図られております。売上高やコスト等の会社状況を注視し、必要に応じてすみやかな各種対応策の実行をしてまいります。

上記の対応策を講じていくとしても、既存タイトルの売上動向、新規タイトルの売上見込及び運営タイトルの各種コスト削減については将来の予測を含んでおり、引き続き業績の回復状況を慎重に見極める必要があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を財務諸表に反映しておりません。

(持分法損益等)

前事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

当社が有している関係会社は、利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性の乏しい関係会社であるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

当社が有している関係会社は、利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性の乏しい関係会社であるため、記載を省略しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

売上高は全てエンターテインメント事業の売上高であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の全額となるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の氏名又は名称	売上高（千円）
グリー株式会社（注）2	691,337
Apple Inc.（注）2	644,561
GeekOut PTE. LTD.（注）3	335,058

(注) 1. 当社は単一セグメントとしているため、関連するセグメント名は記載を省略しております。

2. 相手先は決済会社又はプラットフォーム事業者であり、ユーザーからの代金回収を代行しております。

3. 「De:Lithe Last Memories（ディライズ ラストメモリーズ）」のパブリッシャーである GeekOut PTE. LTD. より、当該ゲームの運営、開発業務を受託しており、これに伴う委託料を受受しております。

当事業年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

売上高は全てエンターテインメント事業の売上高であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の全額となるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の氏名又は名称	売上高（千円）
グリー株式会社（注）2	653,448
Apple Inc.（注）2	419,167
GMOメディア株式会社（注）2	266,177

(注) 1. 当社は単一セグメントとしているため、関連するセグメント名は記載を省略しております。

2. 相手先は決済会社又はプラットフォーム事業者であり、ユーザーからの代金回収を代行しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

当事業年度において、固定資産の減損損失13,409千円を計上しておりますが、当社では、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

当事業年度において、固定資産の減損損失3,155千円を計上しておりますが、当社では、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前事業年度 （自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）	当事業年度 （自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）
1株当たり純資産額	32.99円	19.99円
1株当たり当期純損失金額（△）	△36.09円	△44.19円

（注） 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）	当事業年度 （自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）
1株当たり当期純損失金額（△）		
当期純損失金額（△）（千円）	△882,217	△1,151,722
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る当期純損失金額（△）（千円）	△882,217	△1,151,722
期中平均株式数（株）	24,439,490	26,057,089
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権の発行 ①第9回新株予約権 新株予約権の数 1,400個 ②第11回新株予約権 新株予約権の数 900個 ③第14回新株予約権 新株予約権の数 850個	新株予約権の発行 ①第9回新株予約権 新株予約権の数 1,400個 ②第11回新株予約権 新株予約権の数 900個 ③第14回新株予約権 新株予約権の数 850個

(重要な後発事象)

(借入金の返済)

当社は、2026年1月6日付「借入金の返済完了に関するお知らせ」で開示したとおり、モルガン・スタンレー・クレジット・プロダクツ・ジャパン株式会社からの借入金300,000千円につきまして、手元資金により、2026年1月5日を返済期日として、同日付で返済を完了いたしました。

(第1回無担保普通社債の繰上償還)

当社は、償還期日2026年9月14日を期限とする300,000千円の第1回無担保普通社債をEVO FUNDに全額割り当てておりましたが、2026年1月5日付で償還条項に基づき全額繰上償還いたしました。

- ①繰上償還する銘柄：株式会社enish第1回無担保普通社債
- ②繰上償還日：2026年1月5日
- ③繰上償還額：300,000千円
- ④繰上償還金額：各本社債の金額100円につき金100円
- ⑤繰上償還理由：第20回新株予約権の権利行使分を充当
- ⑥繰上償還による支払利息の年間減少額：0円（無利息）

(和解金の支払い)

当社は、2025年11月11日付「訴訟の和解に関するお知らせ」で開示したとおり、株式会社HashPaletteとの訴訟の和解成立に基づき、2026年1月30日付で和解金88,000千円の支払を完了いたしました。

(第20回新株予約権の行使による増資)

当事業年度終了後、2026年1月31日までに第三者割当による行使価額修正条項付第20回新株予約権の一部が行使されております。その概要は以下のとおりです。

①行使された新株予約権の行使個数	33,540個
②発行した種類及び株式数	普通株式 3,354,000株
③行使価額の総額	191,178千円
④資本金増加額	95,589千円
⑤資本剰余金増加額	95,589千円

上記の結果、2026年1月31日現在の普通株式の発行済株式総数は41,491,560株、資本金は4,999,062千円、資本剰余金は4,998,062千円となっております。